

【2014年3月期 第2四半期（中間）決算記者会見資料】

※実績値は単位未満切り捨て。前年比等の百分率は四捨五入。

①契約の状況等

	(百万円)	2013年9月期			13年3月期 (末)	12年9月期 (末)
		(末)	13/3期比	12/9期比		
新契約年換算保険料	(百万円)	32,076	—	9.0% 減	71,661	35,244
うち第三分野	(百万円)	4,956	—	17.1% 増	9,598	4,234
保有契約年換算保険料	(百万円)	639,608	0.4% 増	1.7% 増	636,749	628,819
うち第三分野	(百万円)	59,444	4.6% 増	10.3% 増	56,844	53,883
保険料等収入	(百万円)	348,721	—	7.8% 減	724,517	378,071
うち個人保険分野	(百万円)	311,318	—	8.0% 減	645,396	338,312
うち団体保険分野	(百万円)	36,593	—	5.9% 減	77,654	38,895
新契約高 ^(注)	(百万円)	1,589,049	—	7.4% 減	3,556,048	1,715,186
保有契約高 ^(注)	(百万円)	36,000,375	0.4% 減	0.2% 減	36,157,936	36,066,472
解約・失効高	(百万円)	1,317,909	—	5.2% 減	2,713,142	1,390,279
解約・失効率	(%)	3.64	—	0.20% イト低下	7.50	3.84

※保険料等収入以外は個人保険＋個人年金保険

※3月期比、9月期比は増減率（解約・失効率は増減ポイント）

※保険料等収入は損益計算書ベース

※解約・失効は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出（9月期の解約失効率は年換算前）

※保険料等収入のうち個人保険分野は個人保険＋個人年金保険、団体保険分野は団体保険＋団体年金保険の合計保険料

※年換算保険料の対象は個人保険と個人年金保険。年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の払込回数に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額（一時払契約等は、保険料を保険期間等（個人年金保険は年金開始時までの期間）で除した金額）

（注）主力商品の一つである「Jタイプ（無配当重大疾病保障保険）」の重大疾病保険金額を加算した金額でみた場合、次のとおりです。

（「Jタイプ」は普通死亡の保障がないため、新契約高・保有契約高には計上していません。）

新契約高	(百万円)	1,824,832	—	4.4% 減	3,992,546	1,909,420
保有契約高	(百万円)	36,987,572	0.1% 増	1.0% 増	36,933,235	36,616,130

②資産の状況等

	(百万円)	2013年9月末			13年3月末	12年9月末
		13/3末比	12/9末比			
総資産	(百万円)	5,439,520	0.7% 増	4.0% 増	5,399,189	5,229,326
実質純資産額	(百万円)	892,230	0.8% 増	28.6% 増	885,291	693,807
実質純資産額／一般勘定資産	(%)	16.5	0.1% イト上昇	3.2% イト上昇	16.4	13.3
ソルベンシー・マージン比率	(%)	1,081.8	38.6% イト上昇	156.8% イト上昇	1,043.2	925.0

※3月末比、9月末比は増減率（実質純資産額／一般勘定資産、ソルベンシー・マージン比率は増減ポイント）

③基礎利益・逆ざや

	(百万円)	2013年9月期			13年3月期	12年9月期
		13/3期比	12/9期比			
基礎利益	(百万円)	47,793	—	34.6% 増	84,635	35,516

※9月期比は増減率

	(百万円)	2014年3月期の予想	2013年3月期の実績
逆ざや額（正值の場合は順ざや額）	(百万円)	3,000	2,395

④準備金

	(百万円)	2013年9月末			13年3月末	12年9月末
		13/3末比	12/9末比			
責任準備金（除く危険準備金）	(百万円)	4,657,614	46,821 増	70,638 増	4,610,792	4,586,975
うち一般勘定（除く危険準備金）	(百万円)	4,636,364	46,192 増	67,929 増	4,590,172	4,568,435
うち特別勘定（除く危険準備金）	(百万円)	21,249	628 増	2,709 増	20,620	18,539
価格変動準備金	(百万円)	67,865	6,893 増	14,067 増	60,971	53,797
危険準備金	(百万円)	59,413	554 増	1,210 増	58,858	58,203
うち危険準備金Ⅰ	(百万円)	38,280	68 減	114 減	38,349	38,395
うち危険準備金Ⅱ	(百万円)	16,662	488 増	1,037 増	16,173	15,624
うち危険準備金Ⅲ	(百万円)	794	23 増	47 増	770	747
うち危険準備金Ⅳ	(百万円)	3,676	111 増	239 増	3,564	3,436
危険準備積立金	(百万円)	—	—	—	—	—
価格変動積立金	(百万円)	—	—	—	—	—
別途積立金	(百万円)	129,000	—	8,000 増	129,000	121,000

※3月末比、9月末比は増減率

※13年3月末の別途積立金は、剰余金の処分後の残高を記載

⑤含み損益

		2013年9月末		13年3月末	12年9月末
			13/3末比		
有価証券	(百万円)	251,861	25,403 減	105,655 増	
うち国内株式	(百万円)	87,100	21,138 増	61,934 増	277,265
うち国内債券	(百万円)	135,027	40,282 減	22,484 増	146,205
うち外国証券	(百万円)	12,403	9,783 減	4,832 増	25,165
うちその他の証券	(百万円)	8,695	4,486 増	16,347 増	112,542
不動産	(百万円)	18,467	1,843 増	1,372 増	7,570
					△ 7,651
					16,624
					17,095

※3月末比、9月末比は増減実額

※有価証券の含み損益は、有価証券のうち時価のあるものについて、責任準備金対応債券および満期保有目的の債券の差損益、
 その他有価証券評価差額の合計値を記載。

また、有価証券合計欄については、金銭の信託内の有価証券を含んでおります。

※不動産の含み損益は、国内の土地および借地権を対象としております。なお、再評価は実施しておりません。

また、時価の評価を原則として鑑定評価額とし、重要性の低い物件等については公示価格を基準としております。

⑥運用実績と計画

		上期実績	下期計画
国内株式	(百万円)	4,313 減	<ul style="list-style-type: none"> 国内債券は、金利水準を勘案した上で、中長期的に資産デフレ化を長期化していく。 内外株式は、株式市場の見通しに応じて残高を増減させる。 外国債券は、為替ヘッジを原則としつつ、金利水準に応じて残高を積み増す。
(国内株式投信等を含む)	(百万円)	8,186 増	
国内債券	(百万円)	11,420 減	
外国株式等	(百万円)	14,880 減	
外国債券	(百万円)	5,244 増	
不動産	(百万円)	400 増	

※上記実績は、約定金額の増減合計により算出しています。また、金銭の信託の設定・解約に伴う資金異動額を含めています。

※国内株式のうち“(国内株式投信等を含む)”は、主たる投資対象を国内株式とする投資信託を含めて記載しています。

⑦資産の含み損益がゼロになる水準

		2013年9月末時点
国内株式(日経平均)	(円)	7,600 程度
国内株式(TOPIX)	(ポイント)	630 程度
国内債券	(%)	1.2 程度
外国証券	(円)	97 程度

※上記数値は、当社のポートフォリオが日経平均株価やTOPIX、新発10年国債利回り、ドル円レートに連動すると仮定し、2013年9月末時点の保有状況により試算した結果です。ただし、当社のポートフォリオはこれらの指標に連動するとは限りませんので、試算時点によりこれらの数値は異なります。

※国内債券は新発10年国債利回り(9月末0.686%)換算し、小数点第一位まで算出しております。なお、9月末のイールドカーブが平行移動した場合の含み損益がゼロとなる新発10年国債利回りの試算値を記載しております。

※外国証券はドル円(9月末97.75円)換算にて算出した為替要因のみの含み損益がゼロになる水準です。なお、為替にかかるとヘッジ会計適用分を除いて算出しております。

⑧2014年3月期の業績見通し

		2014年3月期の予想
保険料等収入	(百万円)	730,000
基礎利益	(百万円)	82,000
保有契約高 ^(注)	(百万円)	35,910,000
保有契約年換算保険料	(百万円)	640,000

(注)「Jタイプ」の重大疾病保険金額を加算した保有契約高の見通しは、次のとおりです。

保有契約高	(百万円)	37,110,000
-------	-------	------------

⑨銀行との資本持ち合いについて

i 銀行からの抛出(総額)

		2013年9月末
基金(株式)に対する抛出	(百万円)	該当なし
劣後ローン等	(百万円)	該当なし

※銀行からの抛出の劣後ローン等は、劣後ローン及び劣後債
 ※銀行からの抛出の株式は9月末の時価

ii 銀行への抛出(総額)

		2013年9月末
保有している銀行株(時価総額)	(百万円)	112,999
劣後ローン等	(百万円)	270,523

※銀行への抛出の保有している株式には、優先株を含む。(各行・グループの海外現法への出資は除く)
 ※銀行への抛出の劣後ローン等は、劣後ローン、劣後債及び優先出資証券

⑩職員数

		2013年9月末		13年3月末	12年9月末	
		13/3末比	12/9末比			
営業職員	(人)	3,975	0.8%増	1.1%増	3,943	3,930
代理店	(店)	13,124	2.5%減	1.3%減	13,459	13,293
内勤職員	(人)	3,255	0.6%減	3.1%減	3,274	3,358

※3月末比、9月末比は増減率

⑪銀行窓販の状況

当社は銀行窓販を行っておりませんので、該当事項はありません。

以 上

その他質問項目（2013年9月）

○変額年金保険等の最低保証に係る一般勘定の責任準備金 繰入・戻入の状況

		2013年9月期	13年3月期	12年9月期
変額年金保険等の最低保証に係る 一般勘定の責任準備金 繰入・戻入	(億円)	△ 0	△ 1	1

※戻入額については△で表示